

車を運転できなくなった日

佐賀県太良町
太良町社会福祉協議会

このポスターは、ともに認知症の症状があり、二人だけでひっそりと山村で暮らす、実在する夫婦の生活の一部を切り取っただけのものです。

先頃、期限切れの免許証で車を運転していることが見つかり、離れて暮らす家族から車を処分されてしまい、今までの生活が一変してしまいました。本人たちにとっては、「ある日突然、車の運転ができなくなってしまった。」と感じられたことでしょう。今は、認知症サポーターや近所の助けを借りながら、住み慣れた家での生活ができています。腰の曲がりや、家業の農作業をずっと続けてきた証です。

このポスターの主題は自助力の向上、つまり「自分で備える大切さ」です。住民の声の中には、「なんとかなるさ」「(移動について)そういうことは行政が考えること」「いつかは免許証を返納するけれど、今は考えられない」など、どこか“他人事(ひとごと)”と感じられるものがあります。しかし、急激な人口減少や若者の町外流失による町の活力衰退、医療福祉人材の不足は深刻で、これまでのように互助・共助・公助に頼ることができなくなっているという現実を直視しなければなりません。「困った時は助け合う」確かにその通りです。しかし、それだけでは片づけられない現実問題もあります。

「自分らしく生きること」を目標とするのであれば、まずは、きちんと自分の人生観や現実の生活と向き合い、考えて取り組んだ先にこそ、“真の自分らしい人生”が見えてくるのではないのでしょうか。とは言え、自分の力だけではどうにもできないことはあるでしょう。その時は、互助・共助・公助へと順に頼っていくことで、社会全体のバランスは取れていくものだと思います。

このポスターには、地域住民が同じ方向を向き、協議体で話し合い、みんなでこのピンチを乗り越えていきたいとの願いを込めました。

最後に、このポスターに関わっていただいた全ての方に感謝します。

